

学会プログラム

受付開始（9：00～）

会長挨拶とアナウンス（9：30～9：40）

【シンポジウムⅠ：「いまなぜパウロ・フレイレか」】（9：40～10：50）

パウロ・フレイレの「被抑圧者の教育学」は国際協力に関わる人なら一度は読んだり、手にとったりしたことのある本ではないかと思います。今年、ポルトガル語からの新訳が出版されたことを機に、あらためてフレイレの思想を国際保健の実践に生かすことについてシンポジストの今までの経験を元に話し合います。

座長：三砂ちづる（津田塾大学国際関係学科）

シンポジスト：

- ・石川信克（公益財団法人 結核予防会結核研究所）
- ・池住義憲（立教大学大学院キリスト教学研究科）
- ・堀越洋一（独立行政法人 国立国際医療研究センター）

【シンポジウムⅡ：「精神保健と国際協力」】（11：00～12：10）

学会場である津田塾大学から徒歩圏内に国立精神保健研究所があります。まだ十分とはいえない精神保健分野の国際保健医療協力の可能性と方向性について、この精神保健研究所のスタッフをはじめとする方々に協力いただいてセッションを行う予定です。

座長：田中剛（独立行政法人 国立精神・神経医療研究センター）

シンポジスト：

- ・井上祐紀（島田療育センターはちおうじ）
- ・森川すいめい（メドゥサン・デュ・モンド・ジャポン東京プロジェクト）
- ・嶋根卓也（独立行政法人 国立精神・神経医療研究センター）

【ランチタイムセッションⅠ：「ゆる体操」】（12：10～12：35）

講師：藤崎智子（NPO 法人日本ゆる協会公認ゆる体操正指導員初級 2nd Grade/プロジェクト「月の小屋」スタッフ）

【ランチタイムセッションⅡ：「国際保健とおむつなし育児」】（13：00～13：25）

演者：和田知代（NPO 法人 HANDS/おむつなし育児研究所）

【ランチタイムセッションⅢ：「東北と言葉つなぎ～震災を越えて～」】（12：15～13：15）

演者：梅内拓生（岩手県大船渡市出身）

【会長講演「変革の契機としての国際保健」】(13:30~14:20)

座長：石川信克(公益財団法人 結核予防会結核研究所)

演者：三砂ちづる(津田塾大学国際関係学科)

【シンポジウムⅢ：「ノン・メディカルによる国際保健」】(14:30~15:40)

国際保健分野で、医師、看護師、薬剤師、臨床検査技師などの医療関係者以外の活躍が目立つようになってきました。実際にはノン・メディカルの方々はどのようなキャリアを経てどのような研究や活動をなさってきたのでしょうか。医療関係者との協働をふくめ、今後のノン・メディカル国際保健関係者の仕事について、語り合いたいと思います。

座長：中村安秀(大阪大学大学院人間科学研究科)

シンポジスト：

- ・千田悦子(UNHCR(国連難民高等弁務官事務所)専門職職員)
- ・定森徹(NPO 法人 HANDS ブラジルプロジェクトマネージャー)
- ・松田智大(独立行政法人 国立がん研究センター がん対策情報センター)
- ・竹原健二(独立行政法人 国立成育医療研究センター研究所)

【シンポジウムⅣ：「Safe Motherhood と助産」】(15:50~17:00)

1980年代後半からはじまった Safe Motherhood(安全に母親になる)イニシアチブでは、家族計画、子宮がん検診、妊婦検診などに力が入られることが多く、実際の出産現場のケアの向上やアップデートはあまり研究、活動が進まなかったといわれています。Safe Motherhood において中心でありながらニッチな分野になってしまっている「助産」について、日本の助産師の技術、助産師教育の特徴などを振り返りながら国際保健への貢献につながるように議論します。

座長：梅内拓生

シンポジスト：

- ・松井三明(独立行政法人 国立国際医療研究センター)
- ・竹内正人(産科医/東峯ラウンジクリニック・ヒューマナイズドケアセンター代表)
- ・小長井祥子(助産師/JICA 短期専門家)
- ・野口真貴子(東京女子医科大学)

【ポスターセッション】(17:00~17:20)

※ポスターは当日朝から貼り出せます。適宜閲覧および、意見交換をしていただけます。

【懇親会】(17:30~19:30)

同じキャンパス内の「大学ホール」にておこないます。BGMなどを聴きながら、楽しくゆったりとしたひとときを過ごしたいと思います。